「警察版コミュニケーション支援ボード」の寄贈について ~全国の都道府県警察へ147,000部提供~

明治安田生命保険相互会社(執行役社長 根岸 秋男)の関連財団である公益財団法人明治安田こころの健康財団(理事長 津坂 睦彦)は、全国の都道府県警察に「警察版コミュニケーション支援ボード」147,000部を提供します。

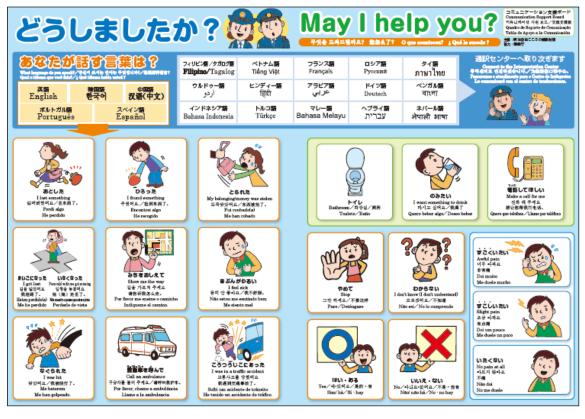
当社では、明治安田生命グループをあげて、地域社会のニーズに応える社会貢献活動に取り組んでおり、今回の寄贈はその一環として、障がいを持つ方や外国の方などとのコミュニケーションのバリアフリー実現を企図し、全国各地で実施するものです。

当社では、今後もさまざまな取組みを通じ、地域社会によりいっそう貢献していきます。

1. 「警察版コミュニケーション支援ボード」について

「警察版コミュニケーション支援ボード」は、話し言葉によるコミュニケーションに バリアのある人(知的障がいや自閉症、聴覚障がいの方や日本語を話せない外国の方な ど)へのサポートツールです。今回、外国人居住者や訪日外国人の増加、および今後の 東京オリンピック・パラリンピック、サミット等の国際イベントの開催を踏まえ、イラストの追加や、対応言語の多様化を進めたコミュニケーション支援ボードを全国の警察 に提供します。

(警察版コミュニケーション支援ボード(交番用))



2. 提供時期·部数等

用途に応じた仕様の「警察版コミュニケーション支援ボード」を全国の都道府県警察に順次提供します。全国の交番用として17,000部、パトカー用として15,000部、警察官携帯用として115,000部、計147,000部を提供します。

3. 「警察版コミュニケーション支援ボード」にかかるこれまでの取組み

時期	取組み
2003年	話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある人(知的障がいや自閉症、聴覚障がいの方や日本語を話せない外国の方など)へのバリアフリー啓発活動として、サポートツールであるコミュニケーション支援ボードを作成。駅、学校、福祉施設、観光案内所等に設置するとともに、その普及活動を実施
2008年	警察庁の協力のもと、警察専用の「警察版コミュニケーション支援 ボード」を作成し、全国の警察に提供
2016年	外国人居住者や訪日外国人の増加、および今後の東京オリンピック・パラリンピック、サミット等の国際イベントの開催を踏まえ、対応言語の追加などの改訂やパトカー用、携帯用の新規作成などを実施のうえ、全国の警察に提供

4. 明治安田こころの健康財団について

1965年3月に財団法人安田生命社会事業団として設立し、2004年4月に財団法人明治安田こころの健康財団と名称を変更し、2012年4月に公益財団法人へ移行しました。当財団は、子どもの健全な育成を通じた社会貢献活動をめざし、自閉症や発達障がいの子どもたちの療育相談、子どもの抱える心理的な問題の相談、精神保健にかかわる専門家育成のための研修、精神保健にかかわる研究助成等の活動を行なっています。

以上